

2020年3月期決算説明資料

株式会社サンマルクホールディングス

2020年5月13日

【証券コード：3395】

2020年3月期業績について

2020年3月期決算の業績概要 連結損益計算書



(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	前年対比	
売上高	70,073	68,908	98.3%	
売上原価	15,248	15,055	98.7%	・原価率21.8%(前期21.8%)
販管費	48,416	49,691	102.6%	・販管費率72.1%(前期69.1%)
営業利益	6,408	4,161	64.9%	・営業利益率6%(前期9.1%)
経常利益	6,569	4,300	65.5%	・経常利益率6.2%(前期9.4%)
純利益	2,908	1,486	51.1%	・純利益率2.1%(前期4.1%)

2020年3月期決算の業績概要

連結損益計算書

➤ 売上高

全店売上97.9%（上期102.1%、下期93.8%）

既存店売上97.1%（上期100.6%、下期93.6%）

下期は消費増税、台風、新型コロナウイルス等の影響により悪化

立地別では新型コロナウイルスの影響もありショッピングセンター立地が苦戦

末端店舗売上709億6千万円（前期比97.8%）

➤ 販管費

2月以降に新型コロナウイルスの影響で売上が急減した結果、販管費率は72.1%へ悪化

前期比では3%悪化しており、人件費のみで1.8%の寄与

人件費の悪化はアルバイト人件費上昇と新型コロナウイルスによる急激な売上減によることが主な要因

その他の要因として賃借料、支払手数料、消耗品費等の比率が増加

➤ 特別損益

固定資産除却損、減損損失、貸倒引当金繰入額の増加により1,791百万円の特別損失を計上

第2四半期時点の業績予想比較

(単位：百万円)

	予想数値	2020年3月期	予想対比	主な減少要因
売上高	71,872	68,908	95.9%	・10月以降の消費増税、台風の影響により約3.5億円減少 ・新型コロナウイルスの影響により約25億円減少
営業利益	6,069	4,161	68.6%	・上記売上減少に伴い売上総利益が約22億円減少
経常利益	6,300	4,300	68.3%	
純利益	2,942	1,486	50.5%	

2020年3月期決算の業績概要

連結貸借対照表

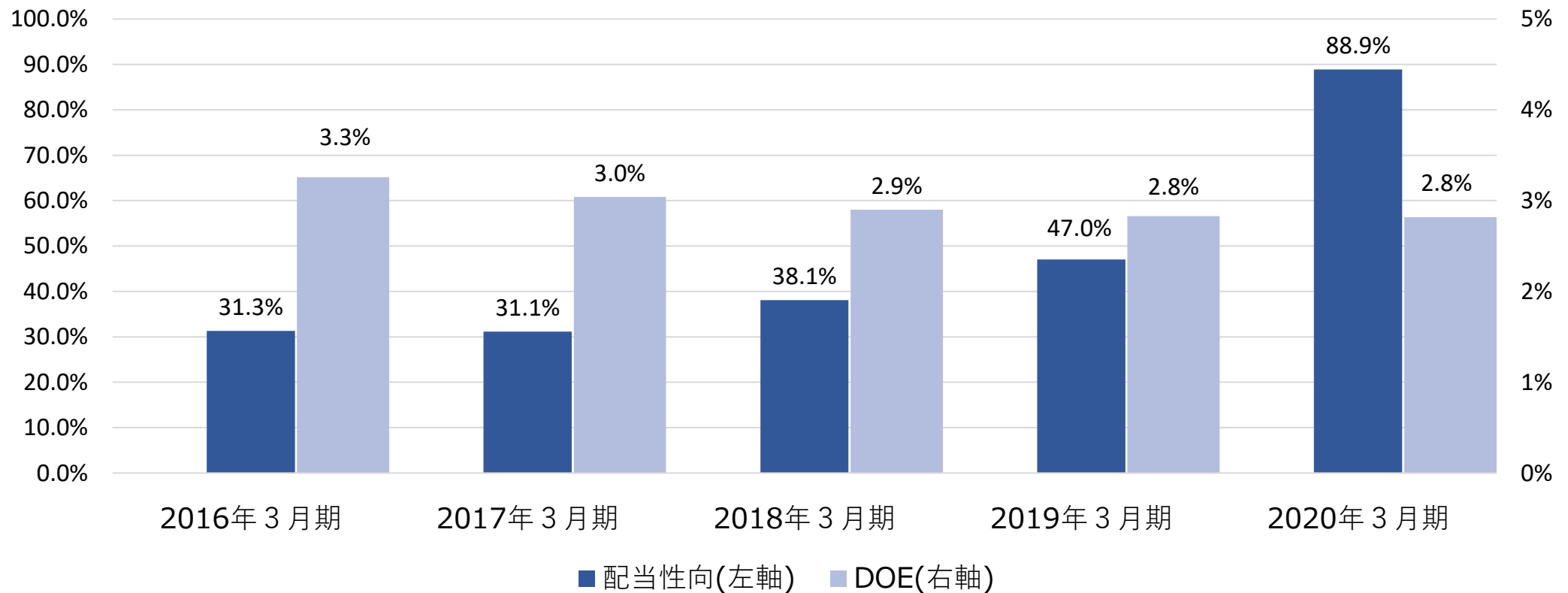
(単位：百万円)

科目	2020年3月期	前期差異	科目	2020年3月期	前期差異
流動資産	18,741	-196	流動負債	6,712	-1,457
現預金	15,014	+1,442	買掛金	1,655	-733
売掛金	2,776	-1,835	未払金	3,606	-456
固定資産	38,692	-1,405	固定負債	3,851	-306
有形固定資産	25,582	-890	長期未払金	188	-340
無形固定資産	154	-12	負債合計	10,564	-1,762
投資その他資産	12,955	-503	純資産	46,869	161
資産合計	57,434	-1,600	負債純資産合計	57,434	-1,600

- 現預金は150億円(前期比+14億円)であり、月商2ヶ月分を上回る水準で着地
- 売掛金、買掛金が減少しているのは前期末が日曜日であった影響を反映
- 固定資産の減少は新規出店が減少したことと、減価償却の進行によるもの

- 2020年3月期末配当については31円を予定
- これにより2020年3月期通期配当は62円となり、前年と同額
- 中期的な目標配当性向を35%に設定、配当の安定性確保のためDOE(純資産配当率)も考慮

配当性向・DOE推移



出退店の状況

当初出店計画の36店舗には届かなかったものの、下期修正計画である33店舗の出店計画はクリア

業態	2019年3月期 期末店舗数	出店数	退店数	2020年3月期 期末店舗数
サンマルク	63	2	2	63
サンマルクカフェ	404	8	7	405
函館市場	16	1	1	16
バケット	106	0	8	98
鎌倉パスタ	207	11	2	216
サンマルクグリル	37	1	1	37
倉式珈琲	55	11	1	65
HD(中華業態・実験業態)	34	1	3	32
グループ合計	922	35	25	932

※旧サンマルクチャイナ(中華業態)につきましては2020年3月1日付でサンマルクHDに吸収合併しております

▶ レストラン業態

◆ サンマルク

既存店売上：上期堅調に推移。消費増税のあった下期についても前年クリアをする月もあるなど概ね堅調

出店：当期は2店舗出店、進捗期については1店舗の出店を予定

◆ バケット

既存店売上：既存店の体制を整えることに集中しているがまだ改善はできず。進捗期では社長を交代し本格的に再建に着手

出店：再建フェーズにあることから当期の出店なし、進捗期についても新規出店の予定なし

◆ 鎌倉パスタ

既存店売上：上期堅調に推移。下期も比較的堅調に推移しており、グループの中核業態となっている

出店：当期は11店舗の出店を行い、下期の修正計画どおりの着地、進捗期については新型コロナウイルスの影響もあり出店計画は抑える方針

➤ レストラン業態

◆ 函館市場

既存店売上：3月に新型コロナウイルスの影響を受けながらも通期では前年超え、2期連続で既存店売上前年超えをしており、グループ内で最も好調な業態

出店：海鮮丼業態の2号店を出店

◆ サンマルクグリル

既存店売上：一等立地への出店が多いため新型コロナウイルスの影響が出始めた4Qに苦戦

出店：当期は主力業態の神戸元町ドリア1店舗、ハンバーグの新業態の1号店を出店、進行期についてはハンバーグ業態と野菜とグリル料理をメインに据えた新たな業態を出店する計画

➤ 喫茶業態

◆ サンマルクカフェ

既存店売上：健康増進法への対応を12月頃からスタートさせており、4Qで苦戦している

出店：当期は8店舗の出店を行った。進行期については新型コロナウイルスの影響を勘案しながら数店舗レベルの出店を計画している

◆ 倉式珈琲

既存店売上：これまでの新規出店ペースを見直し、既存店のブラッシュアップに軸足を移しており、その結果前年超えをする月も出てきている

出店：当期は11店舗の出店、進行期については抑制的な計画

2021年3月期について

- 緊急事態宣言に伴い、お客様および従業員の安全確保のため、当該期間中は当社グループで最大889店舗が休業
- 3月既存店売上66%、4月既存店売上14.3%であり、緊急事態宣言発令後に売上減少が加速
- 2021年3月期については経費圧縮および設備投資縮小によりキャッシュアウトの最小化を図る
- 影響の長期化に備え、手元資金を厚くする目的で借入の実行および当座貸越枠を設定
 - － 3月末現預金150億円に加え、200億円の借入および100億円の当座貸越枠の設定により財務基盤を強化
- 短期的なB/S変化として、自己資本比率は81.6%から60.5%に低下するものの、長期借入金にて調達することにより流動比率は279%から577%へ向上し、短期的な財務の安定性を確保

(店頭POP例) 新型コロナウイルス感染症への対応について

安心してご利用いただくために実施している感染予防対策

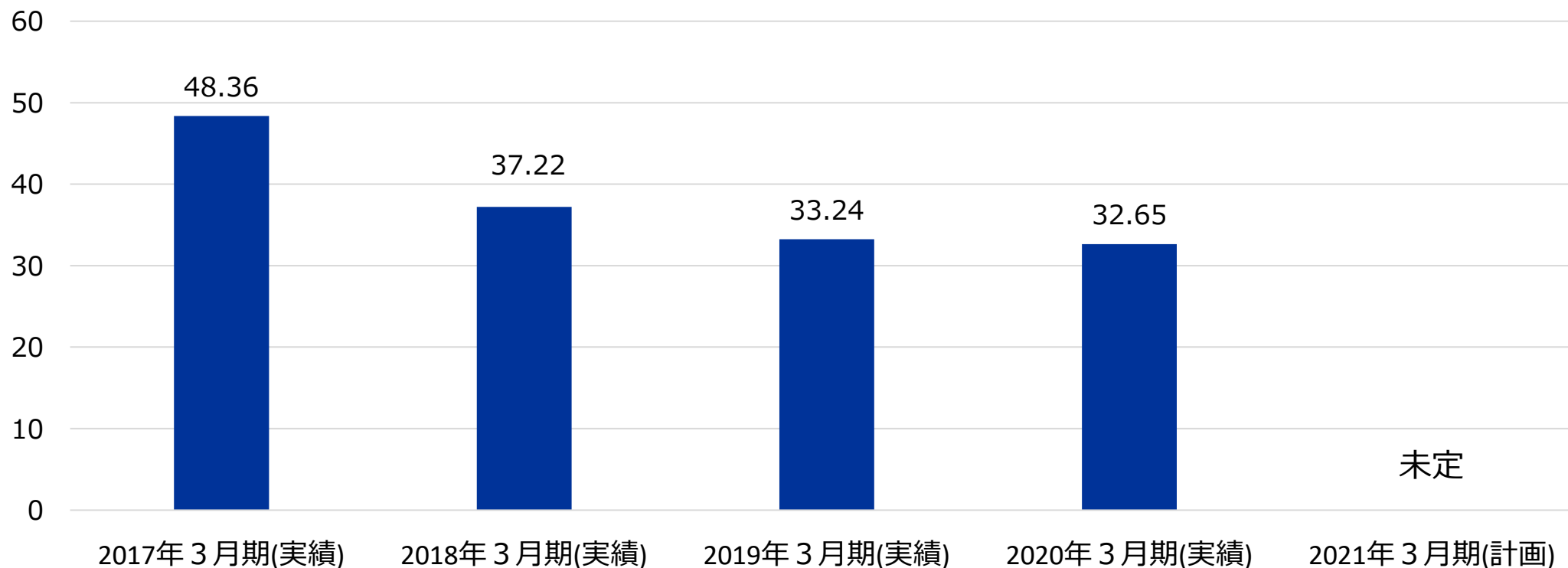
<p>01</p>  <p>従業員の衛生管理 検温・手洗・アルコール消毒</p>	<p>02</p>  <p>従業員の密接対策 マスク・手袋着用</p>	<p>03</p>  <p>除菌対策 お客様用アルコール設置</p>
<p>04</p>  <p>感染予防 パンの個包装</p>	<p>05</p>  <p>除菌対策 トングの回収・消毒</p>	<p>06</p>  <p>密集・密接対策 間隔確保の表示</p>
<p>07</p>  <p>密接対策 レジ前カーテンの設置</p>	<p>08</p>  <p>密接対策 トレーでの金銭授受</p>	<p>09</p>  <p>密集・密接対策 席間隔を空ける呼掛け</p>

- お客様に安心してご利用いただくための対策を実施
ー店頭へのアルコール消毒液の設置、従業員の
手洗い・マスク着用・勤務前の検温の徹底等

- 本社、東京事務所においてもテレワークを推進

- 今期の設備投資計画は未定であるものの、不確実性が高まっている状況を鑑み前年比で抑制した計画とする予定
- 出店計画：契約済みである11物件以外はゼロベースで見直し
- その他設備投資計画：健康増進法に伴う改装、必要最低限の店舗修繕に留める方針

設備投資額(単位:億円)



➤ 生産性向上

サービス方法の見直し、厨房機器の改良や厨房レイアウトの見直しによる生産性向上の検証を今期中に実施予定

➤ 販売チャネルの多様化

コロナ後を見据えてテイクアウト・デリバリー向けの商品開発に着手し、これまでの店内飲食に偏った事業構成を見直す

➤ 健康増進法関連

本年4月より施行された健康増進法により影響を受けるサンマルクカフェを中心として、「できたて・つくりたて」という本来持っていた当業態の魅力を再度訴求する取り組みを行い非喫煙者の顧客層の取り込みを図る

- 新型コロナウイルスの影響により現時点において適正かつ合理的な予測が困難であることから今期の業績予想は未定としております
- 配当につきましては未定ながら、中期的な目標配当性向は35%としております
また、安定配当の観点も加味し、DOE(純資産配当率)も判断材料としております
- 合理的な予測が可能な状況になりましたら速やかに業績および配当予想を公表いたします

本資料は当社グループに関する情報提供を目的としており、当社の発行する有価証券への投資の勧誘を目的とするものではありません。

本資料に記載されている計画や予測等の将来情報については、現時点における当社の判断であり、外部環境の変化等により実際の結果と大きく異なる場合がございます。

IRに関するお問い合わせ先
株式会社 サンマルクホールディングス
管理本部 岡村・藤川
電話：086-246-0309